

ママのビタミン

市販の虫さされ・かゆみ止めの薬いろいろ

夏場は、虫に刺されることがよくあります。お子さんだとかきこわして、余計に炎症や化膿することがあります。早めに市販のぬり薬などでかゆみを抑えてあげることが大切です。

@ぬり薬の使用感

軟膏はベタベタ感がありますが、皮膚に膜を作って保護する作用があります。クリームはサラッとしています。汗などで流れやすいのが難点です。液体は塗ってすぐ乾くので便利ですが、その分効いている時間が短いのが難点です。その他ゲル、パッチ等色々ありますが、まずは患部の使用感で選んでいただくのが良いでしょう。

@かゆみを止める成分にも、色々あります

蚊などのちょっとしたかゆみなら、抗ヒスタミン成分（ジフェンヒドラミン、クロルフェニラミン等）・局所麻酔成分（ジブカイン、リドカイン等）、その他クロタミトン、グリチルリチン等が、早く良く効くように工夫してブレンドされています。

もの凄くかゆい時は、ステロイド成分（デキサメタゾン、プレドニゾロン、ヒドロコルチゾン等）の入っている薬が良く効きます。ただ、「ステロイド」は、副作用が怖い!と思われる方もいるのではないのでしょうか?市販のぬり薬については、使用上の注意を守れば怖がる必要はありません。特にアンテドラッグという成分（プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル、ヒドロコルチゾン酪酸エステル等）は、塗った部位にはちゃんと効果があるけれども、体に吸収されると代謝されて効果を失うしくみを持っており、副作用を少なくする工夫がされています。

使用前に説明書をよく読みましょう!



ステロイドって副作用は大丈夫?



商品選びに迷う時は、ぜひ店頭の薬剤師や登録販売者にアドバイスをもらってください。ただ、どんな薬にも副作用はつきものです。薬に付いている使用上の注意をよく読んでください。注意すべきことがわかりやすく書いてあります。例えば、市販のぬり薬では「長期連用しないでください」と書いてあります。この場合の長期とは2~4週間ぐらいをいいます。市販のぬり薬を使っても症状が良くならない、または悪化している場合は、皮膚科の受診をお勧めします。その際、使用していた薬の説明文を持って行きましょう。

薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 検索